

# 名古屋城三之丸の外堀の中を走る電車

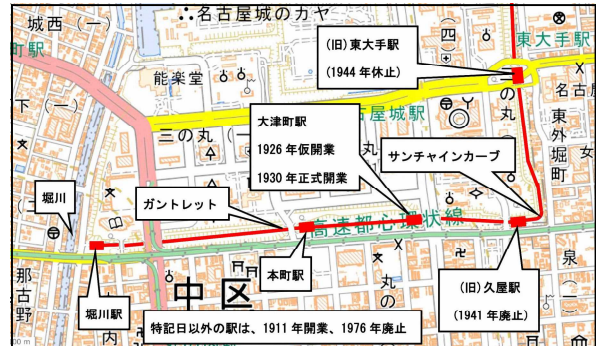
## — お堀電車 (旧名鉄瀬戸線) —

### ■お堀の中を電車が走る

今は地下で栄町に乗り入れている名鉄瀬戸線(愛称:せとでん)は名古屋城三之丸の外堀の中を走っていた。瀬戸電気鉄道は1911(明治44)年に堀川まで全通させたが、1939(昭和14)年、国策によって名古屋鉄道と合併し名古屋鉄道瀬戸線となった。地元では「お堀電車」と親しまれていたが、お堀の区間は瀬戸線の栄町乗り入れ工事着工に伴って、1976(昭和51)年に廃止された。(図1)



[写真1] サンチャインカーブ 1976年1月



[図1] お堀電車の廃線跡(朱色部分) 国土地理院地図より作成

### ■お堀を直角に回る「サンチャインカーブ」

外堀の南東角を直角に回るところには、半径60m(ヤード・ポンド法で約3 chain)の急カーブがあった。路面電車以外ではめずらしい急カーブだとして、「サンチャインカーブ」と呼ばれていた(写真1)。



[写真3] 尾張瀬戸行き特急電車



[写真2] スカーレット色

### ■特急電車も走った

1966年、せとでんにも特急が走るようになった。本線の特急電車・パノラマカーと同じスカーレット(赤)色に塗装(写真2)し、ミュージックフォーンを鳴らし、逆富士方向板を掲げ、車内は転換クロスシートと本線の特急並みに改装された電車が登場した。最盛期には20分間隔で大津町駅と尾張瀬戸駅を結んでいた(写真3)。大津町駅は「お堀電車」の中心駅であった(写真4)。

### ■ガントレット

「お堀電車」は単線で開業後すぐに複線になったが、本町駅(写真5)の西側に架かる本町橋をくぐるころは複線にするだけの幅員が確保できず、上下線の線路



[写真5] 本町駅ホーム



[写真4] 大津町駅舎

を重ねて単線の幅員にはめ込むガントレット(単複線・狭窄複線)方式を採用した(写真6)。国内ではほとんど例がなく全国から注目されていた。



[写真6] ガントレット、上は本町橋



[写真7] 手動扉のモ700形電車  
尾張瀬戸行き準急 1976年1月

### ■手動扉・乗客が手で開閉

せとでんには昭和40年代後半まで、乗客が自らの手で扉の開閉をする手動扉の電車が走っていた(写真7)。この電車の塗色は明るい緑色。走行中に扉が開いてしまい、車掌が駆け寄って閉めることがあった。時には車掌が外から各車の扉を閉めて、走り出した電車にとび乗るといった芸当も見られた。

(山田 貢)